

サレジオン国際学園中学校高等学校 令和6年度 単元ルーブリック

学年／コース	高1選択	教科／科目	選択美術 I	時間数	2時間／週	
1学期						
単元名	平面作品の基礎の学習/油画制作				使用教材	
単元の概要	平面作品の制作におけるロジックや扱う画材についてを学ぶことで、自身の制作活動の発展を目指す。				日本文教出版,高校の美術 I	
評価規準				単元内容		
究	A3	B3 完成された作品を再度見つけ直し、その表現方法などを再確認することで、さらにこだわりを持って取り組むことができる。	C3 完成されたそれぞれの作品を鑑賞し、共有することで、新しい視野を得ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面制作における物の形の捉え方を理解する。</li> <li>・色彩を理解する。</li> <li>・絵具を理解する。</li> <li>・油画の歴史や画材、技法を知る。</li> <li>・平面作品を制作する。</li> <li>・制作のための取材として、対象をよく観察したスケッチ(取材)を行い、十分なエスキースを作成する。</li> <li>・作品の魅力を表現する為の構図で制作を行う。</li> <li>・作品の講評会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【PBL活動】</li> <li>・自分と美術の関わりを考える。</li> <li>・美術と社会の関わり、美術の持つ文化的、社会的役割について考える。</li> <li>・普段扱う画材について再考する。</li> <li>・油画を理解し、平面作品の制作について考える。</li> <li>・素材の特徴を活かした表現や技法の応用を考える。</li> <li>・自身や他者の作品を客観的に鑑賞する。</li> </ul>	
	活	A2 いくつものアイデアの中から、魅力を引き出すためのエスキースを多く作成することができる。	B2 材料や用具の特性を理解し、下塗りや、マチエールの効果を生かした表現方法を考えることができる。			C2 材料や用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、形体や、色彩、質感、空間などの表現を工夫し考えることができる。
礎	A1 材料や用具の特性を理解し、多くの表現方法から選び、制作に取り組むことができる。	B1 物を深く観察し、どのような表現方法で作品を制作するかを考えることができる。	C1 自らテーマを設定し、独自の表現方法を追求し、興味を持って描くことができる。	〈留意点・評価〉		
	知性・知識	応用・発展	創造的思考	<p>学んだ技法を活かし画材の特徴を捉え平面作品としての魅力が高められていること、主題が明確に表現されていること、与えられたテーマに沿って自身の意図が画面に効果的に反映されていること、モチーフ・構図・色彩・マチエールの調和が作品の中で取れていることを評価のポイントとし、完成された作品で評価する。また授業への積極的な参加の姿勢や課題への取り組みを平常点として加算する。</p>		

サレジアン国際学園中学校高等学校 令和6年度 単元ルーブリック

学年／コース	高1選択	教科／科目	選択美術 I	時間数	2時間／週
2学期					
単元名	私の見つけた風景				使用教材
単元の概要	身近な場所の良さを再発見することによって、形態や色彩、構成などを創意工夫して風景の中に自分自身を登場させ油彩で描く。				日本文教出版・高校の美術 I
評価規準				単元内容	
究	A3	B3 完成された作品を再度見つめ直し、その表現方法などを再確認することで、さらにこだわりを持って取り組むことができる。	C3 完成されたそれぞれの作品を鑑賞し、共有することで、新しい視野を得ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教室や廊下、校舎など、身近な風景をよく観察する。</li> <li>・色々角度から風景を考察し、その魅力を表現する為の構図を考える。</li> <li>・油絵具の特性を生かして、形や色、陰影などを効果的に表す為の構想を練る。</li> <li>・風景の描き方を工夫する。</li> </ul> 風景と自分との関係について思考を深めながら、魅力を表すように描きこむ。	【PBL活動】 目に見えている風景から、自然、人工物、自分の存在について考える。
	活	A2 風景を深く観察し、視点や構図、色調などを工夫して描くことができる。	B2 材料や用具の特性を理解し、下塗りや、マチエールの効果を生かした表現方法を考えることができる。		
礎	A1 材料や用具の特性を理解し、制作に取り組むことができる。	B1 スケッチしながら、風景の魅力を表すための構図を工夫することができる。	C1 色々な方向から観察し、形や色など、これまで気づかなかった良さや、美しさを見つけ表現することができる。	〈留意点・評価〉	
	知性・知識	応用・発展	創造的思考	評価のポイントとして、実在する風景の形や色などから、風景の何を表現したいのかを明確にしていること。視点・構図・色調・陰影・空間・遠近法などをいずれかを駆使して表現されているか。材料や道具の特性を生かして、風景の魅力を引き出すように追求しているか。完成された作品で評価する。	

サレジオン国際学園中学校高等学校 令和6年度 単元ルーブリック

学年／コース	高1選択	教科／科目	選択美術Ⅰ	時間数	2時間／週
3 学期					
単元名	作家研究／光を捉える			使用教材	
単元の概要	美術作品を鑑賞するとき、作品の良さや美しさなど存在する「何か」を感じ取り、作者の意図や工夫について考える。与えられた時間の中で、気になる作家を一人選び、その人物の作品を模写(今回は油絵作品限定)することで、作家の技法や構図の工夫などを感じ取りながら描いてみる。さらに絵画に描かれた「光」の表現に着目し、キャンパスに描かれた作品の「光」が、どのように描かれているかをしっかり捉えながら、模写を試みる。			日本文教出版、高校の美術Ⅰ	
評価規準			単元内容		
究	A3	B3 完成された作品を再度見つめ直し、その表現方法などを再確認することで、さらにこだわりを持って取り組むことができる。	C3 完成されたそれぞれの作品を鑑賞し、共有することで、新しい視野を得ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描きたい作品を鑑賞し、感じるイメージなどについて考える。</li> <li>・構図や物などの描き方に着目し、油彩によって表現する。</li> <li>・「光」と「影／陰」の描き方に着目して表現の工夫を試みる。</li> </ul>	<b>【PBL活動】</b> 自身が選んだ作家の絵から読み取る、作家の心情や意図、表現についてそれぞれ考える。
	活	A2 絵画表現における「光」の表し方に感心を持ち、描き方や効果に着目して、表現などを考えることができる。	B2 絵の具で描かれた「光」がどのようにして発せられているかを理解し、さらに「光」と「影／陰」の描き方に着目し模写することができる。		
礎		A1 自身が選んだ作家について調べ、作品を通じて、心情や意図、表現方法について理解することができる。	B1 材料や用具の特性を理解し、作者の目的や意図に応じて、模写することができる。	C1 描きたい作品対象を見つめ、油絵の特徴を活かしてイメージを追求することができる。	<b>〈留意点・評価〉</b>
		知性・知識	応用・発展	創造的思考	評価のポイントとして、光の強さや、描き方の違いについて考えているか。具体的に使われている絵の具や、筆のタッチなどを読み取り、どのように表現しているかをしっかり捉えることができるか。完成された作品で評価する。